

## ハロウィンと歌舞伎

早朝、成田空港から出発しなければならなかったので、始発の電車に乗った。山手線の中には多少酒臭く、顔に傷跡やハートマー等々書き込んだ複数のグループが乗っていた。中には、メイキャップを落としきれずに、白い粉をふいたような顔色の若者もいた。山手線の列車は長いから、各車両の3分の1がそのような人だとすると、その列車の中には相当数そんな人たちが乗っていたことになる。列車は数分間隔で運転されるから、東京全体を考えると大変な数になる。いつ頃からこんなことになったのか知らないが、私の知らないところで何かが変わっている。去年の話だと思うが、Oさんから面白い話を聞いた。外国人の研究者から頼まれて築地の見学に行ったのだが、当然、朝早く始発に乗らなければならない。電車（おそらく地下鉄）にのったら、座先にフランケンシュタインやドラキュラの死体が数体転がっていたそうだ。外国人は驚いたらしい。ハロウィンで騒いでいた連中が朝帰りの地下鉄の中で酔いつぶれていたのだ。ハロウィンの翌日に築地に見学に行ってはいけない。

外国のハロウィンはどうなっているのだろうか。おそらく子供の祭りなのだろう。日本の都会で行われているハロウィンは、今の日本の独特の文化なのかもしれない。誰でもできるコスプレとい風に理解すればよいのかもしれない。昔の日本と言ってもそんなに大昔ではないが、村芝居というのは結構面白くて地域の人々の楽しみだったらしい。日本の大衆文化のある部分に、演じたいという願望があるようだ。私は歌舞伎が全く分からないのだが、あのデフォルメされた演技はそうした願望につながっているのだろう。真面目腐って陰気な芝居をする新劇のようなものが一般の日本人に受けない理由がよくわかる。さすが、マンガとアニメの国だ。